



あくまでも紙のパッケージというモノづくりにこだわりたい 富士印刷株式会社が選択したのはスピードマスターCD102 スピードマスター CD102-5 ドライスターLE UV

- ・パッケージ一貫体制の構築のために
- ・厚紙を安定した品質で生産できるかが導入の決め手
- ・オペレータに依存しない自動化の機械が鍵

“ものづくりの聖地”と言われる新潟県三条市に本社をかまえ、初夏には社屋周辺が美しく稲穂の緑にも染まる 1970 年創業の印刷会社、富士印刷株式会社。どこにでもありそうな地方の小さな印刷会社から、成長していくお客様のニーズにスピーディに対応するために自社にない強みを持った新潟に本社を持つ印刷会社を M&A するなど、さまざまな取り組みで自身も成長を続けてきました。現在は、売上の 6 割を占めるパッケージ印刷を中心に、シール等を含む商業印刷まで、幅広い仕事をこなす総合印刷会社として、105 名の従業員が活躍する場となっています。すべての工程を自社で対応する社内一貫生産体制（ワンストップサービス）を会社の強みとし、きめ細かなフォローと無駄を省いたスピーディな対応で顧客の要望に応え、主に地元燕三条からの仕事を中心に、売上の約 6 割は県外からも受注して幅広くビジネスを展開しています。代表取締役社長 星野里美氏は、「お客様が、デザイン、印刷、加工、発送等、工程ごとに発注をすれば、手間も時間もかかります。私たちは、そんなお客様の手間や時間を取り除いて便利に使ってもらえる会社、つまり“ワンストップショッピングで使い勝手のいい会社”になりたいと思っています。また、特にパッケージの形状やデザインにはこだわがあり、お客様の商品を少しでも引き立てるために、企画やデザインは組織を強化し力を入れています。」と、自社の特徴について語ります。



2018年10月、現在の本社工場の竣工に合わせ導入した、スピードマスター CD102-5 ドライスターLE UV。



代表取締役社長 星野 里美 様

紙のパッケージというモノづくりにこだわりたい

さらにパッケージ印刷ビジネスへの思いについて、星野社長は熱く続けます。「昔から現在までパッケージ印刷以外にもさまざまなお仕事をやらせて頂いていますが、私はパッケージ印刷をずっとやりたと思ってきました。そしてこれからも、紙のパッケージというモノづくりに、こだわっていきたいと思っています。多くの印刷会社がマルチメディアの時代に対応するために、ネットでのコミュニケーションを中心に印刷メディア以外にもビジネスを広げていらっしゃると思いますが、弊社はあくまでも紙のパッケージという“モノ”づくりにこだわっていきたいと思っています。さらには、商品企画やイベントなどのコンセプトを理解してデザインしたり、提案したりしていきたい。そんな形で紙のパッケージのモノづくりに深くかかわりながら、これからもビジネスを展開していければと考えています。」

苦勞して印刷していた仕事が簡単にできて拍子抜け

こうしたビジョンをもつ富士印刷が、2018 年 10 月に導入したのが、スピードマスター CD102 ドライスター LE UV の 5 色機。当時、全判の他社製印刷機 4 台を使用していたにもかかわらず、ハイドルベルグ機の導入に踏み切った理由について星野社長は、「何しろ厚紙をちゃんと刷りたかった。安定して高い品質で刷りたかった。なぜなら、うちは台紙などもやるので非常に機械を酷使して使うし、厚紙を 2 回通することもしばしばあるからです。一度通して反ってしまった紙なども安定して刷れ

る印刷機が必要だったんです。それに営業を通して聞こえてくるハイデルさんの評判も非常によかった。

そこで検討を重ねて、導入前にその時ハイデルさんの東京ショールームにあったフィーダとデリバリーは CD102 と同じという XL106 でテストを行いました。実際に一度通して反ってしまった紙を持ち込こんでテストしたのですが、それはとても衝撃的な結果でした。なぜなら、今まで苦労して 8,000 回転でやっと印刷していたものが、テストの時には 17,000 回転で、簡単に、しかも音も静かで全く問題なく印刷できたからです。何か拍子抜けしてしまったのを覚えています。」と、当時の導入前のテストの様子を振り返りました。「導入してもうすぐ 3 年ですが、現在もスピードマスター CD102 は、基本的に常時最高速度の 15,000 回転で当たり前に回しています。メインのオペレータは男性ですが、彼は工場全体も見てるので、サポートについている女性がひとりで回すことも多いです。自動化がとても進んでいる機械なので、熟練工でなくても回せ、操作もとても簡単で使い易いと聞いています。また、この少ロット時代にとってもいいなと私が感じているのは、仕事替えが早く、時間が大幅に短縮できること。社員も私も、スピードマスター CD102 の生産性、品質には、とても大変満足しています。」



富士印刷の最大の武器となるパッケージ製造の全てを社内で一貫対応できる体制を持っていること。特にデザイン部門は意識して強化しているという。

人手不足が予想されるこれからは、オペレータに依存しない自動化の進んだ機械が鍵

富士印刷にとっても人手不足は、今後の大きな課題です。しかし、その課題にも数年前から取り組み、現在成果が表れています。力を入れているデザイン部門については、昔から比較的人は集まり易



「モノづくりのまち」新潟県三条市にある富士印刷株式会社



左から山口印刷課主任、CD102オペレータの和田様、関様、星野社長、志田印刷・製造課長。清潔で整理整頓の行き届いた本社工場のCD102の前で。

かったそうですが、製造部門についてはそうはいかない時期もあったようです。しかしフラットな組織、コミュニケーションを深めるユニークな福利厚生など、若い人が不安なく働けるような体制づくりを実行してきた結果、現在は製造部門にも多くの応募がくるようになり、女性比率も増えているといいます。実際、現在工場でメインオペレータとして 2 名の女性が働いています。「これから人手不足はもっと深刻になってくると覚悟しています。そのためにハイデルベルグのスピードマスターのような高度に自動化された機械、オペレータに依存しない機械への投資はとても大切になってくると思いますし、一方、少ない人数でも、また突然お休みを取らなければいけない人がいても、余裕をもってやっていけるような働き方改革に対応した職場の体制づくりも必要だと考えています。すでに、そうした課題に対応するようなアクションを実行していて、どのプロセスのどの機械でもメインのオペレータが休んでもサブの人が最低でも 7 割の生産ができるようにしています。」と、星野社長は将来への備えにも万全を期していくと締めくくりました。

史上世界一の販売台数を誇るスピードマスター CD102

スピードマスター CD102 は、70x100 サイズのカテゴリーにおいて 50,000 ユニット以上の導入実績を誇る、世界で最も販売されている枚葉オフセット印刷機です。ドイツ、ウィスロフホ - ヴァルドルフ工場での生産に加え、2005 年にオープンした中国上海郊外にあるハイデルベルグ社のチンブー工場でも組み付けが行われています。ドイツと同じ製造工程、品質基準で管理され、世界中のお客様に向けて出荷されています。すでに 15 周年を迎えた 2020 年の 7 月には、チンブー工場からスピードマスター CD102 の 9,999 ユニット目が出荷されました。

富士印刷株式会社

本社：〒 959-1151 新潟県三条市猪子場新田 1122-1
TEL：0256-45-1211
FAX：0256-45-1210
<https://www.fujipt.co.jp>